

個人質問



医療の公的補助の充実について

(1)子どもの医療費について

問 公明党として強く要望していた子どもの医療費について通院助成の対象年齢を就学前から小学6年生までの拡充と本年12月実施に向けた補正予算の上程について、今議会における市長の決断を高く評価する。継続的な制度とするための財源的根拠と今後の方向性について問う。

答 事業系一般廃棄物の有料化、自主財源の確保等経営改革による効果により拡充。今後も職員の知識を活用し、経営改革を推進し確保した財源で安定的な市民サービスにつなげる。

(2)高齢者の医療費について

問 府下の数市では、老人医療の府制度の所得制限を撤廃する等独自の制度を設けているが本市においての考えを問う。

答 本市においては、介護予防事業や健康増進事業を実施、平成29年春のオープンを目途に（仮称）元希者センター建設等高齢者が健康で生きがいをもって暮らせるよう努める。

要望 本市の高齢福祉事業の周知。

(3)病気の予防の取り組みについて

問 病気予防に力を入れた施策を他市に先駆け取り組んでいるが制度があっても活用しないと効果はでない。今後の取り組みを問う。

答 病気予防については、国に先駆け、各種予防接種の充実に努めている。各がん検診についても、未受診者への受診勧奨を実施。ピロリ菌検査等疾病の早期発見・早期治療に努めている。今後も予防事業の検証を重ね取り組んでいく。

未来を育む

(1)奨学金制度について

問 本市の奨学金制度は、教育委員会において高校等入学準備資金の貸付がされているが現在の社会情勢に対応した本市独自の奨学金制度の検討を問う。

答 本市の制度は、昭和43年にできたものである。社会状況も変化しているなか今後時代にあった制度を検討していきたい。

要望 大学入試受験料等にも対応できるように。

(2)中学校給食について

問 平成24年4月他市に先駆け、民間活力を導入した全員喫食の中学校給食が始まり、3年。導入当初より色々な改善を重ねて頂いているが冷たいとの声がある。中学校給食の現状を問う。

答 衛生管理を第一として、栄養バランスのとれた給食の実施をしてきた。生徒自身による温かいご飯の盛り付けをはじめ、温かい汁物も提供、今年度から牛乳を紙パックに変更し、飲み残しが減少した。今後もおいしい給食をめざし、研究検討していく。

要望 大東市が導入している蒸気加熱装置について検討を。

(3)認知症サポーターの養成について

問 今後の高齢化社会に向け、子ども対象の認知症サポーター養成講座受講により、認知症に対する正しい知識と地域で出来ることについて学ぶことでさらに安心、安全なまちづくりが出来ると思うがどうか。

答 今後も高齢者福祉・高齢者理解の取り組みについて、各学校、地域実態も踏まえ積極的に取り組み、人に優しいまち・松原を担う子ども達の育成に努める。認知症サポーター養成についても、各校へ情報提供をしていく。

新たなまちづくりについて

(1)地域密着型ポイント制度の導入について

問 高齢になっても健康でいきいきと住み慣れたこのまちで過ごせるような仕組みづくり。例えば、学習を通しての世代間交流や子どもの見守り、公共の場の清掃活動など閉じこもりがちな方に社会参加を促し、生きがいづくりや健康寿命の延伸につながるようポイント制度の導入を提案するがどうか。

答 まちづくりの柱であるセーフコミュニティのキーワードは「協働」。65歳以上のお元気な方々を巻き込み、世代間交流も図り、少子高齢化を打破できるものとして今後、検討・研究していきたい。

高齢者の住まいについて

問 高齢化が進むなか、住宅問題は大きな課題。ひとりになっても、住み慣れた松原で自立した生活を望む高齢者に市営住宅へ入居出来る配慮は出来ないか。

答 現在、公営住宅法に基づいて募集をしていて難しい点もあるが超高齢化社会に向け、研究、検討していきたい。

要望 3親等以外の高齢者のルームシェア等の検討を。

